

授業科目名	脳神経医学Ⅲ		単位	5単位
科目責任者	まるやま ひろふみ	所属	脳神経内科 (内線 5200)	
	丸山 博文	メール	hmaru@hiroshima-u.ac.jp	
科目 コーディネーター	ほそみ なおひさ	所属	脳神経内科学 (内線 5201)	
	細見 直永	メール	nhosomi@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<p>脳神経は中枢神経系、末梢神経系により複雑に構成され、筋肉の動きを制御し、一方で外界を感じするために必要な五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）などを司っている。</p> <p>中枢神経系、末梢神経系や筋肉の構造や機能を理解することは、臨床において中枢神経系、末梢神経系や筋肉における多岐にわたった疾患を的確に診断し、適切な治療を行っていく上で重要である。</p> <p>さらに、それぞれの系における循環障害、腫瘍、炎症、変性などにより全身に影響する障害を呈し、死亡・寝たきり・要介護の原因となるため、その病態と症状を適切に理解することが求められる。</p>			
講義ユニットの 到達目標	<p>けいれんの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>けいれんをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>けいれんがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>もの忘れの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>もの忘れをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>もの忘れがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>頭痛の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>頭痛をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>頭痛がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>運動麻痺・筋力低下がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>小脳性・前庭性・感覚性運動失調障害を区別して説明できる。</p> <p>振戦を概説できる。</p> <p>その他の不随意運動（ミオクローヌス、舞踏運動、ジストニア、固定姿勢保持困難(asterixis)、アテトーシス、チック)を概説できる。</p> <p>歩行障害を病態に基づいて分類できる。</p> <p>失語症と構音障害の違いを説明できる。</p> <p>脳浮腫の病態を説明できる。</p> <p>急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候を説明できる。</p> <p>脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。</p> <p>脳・脊髄のコンピュータ断層撮影(computed tomography &lt;CT&gt;)・磁気共鳴画像法(magnetic resonance imaging &lt;MRI&gt;)検査の適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>神経系の電気生理学的検査（脳波検査、筋電図、末梢神経伝導検査）で得られる情報を説明できる。</p> <p>脳脊髄液検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>脳血管障害（脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫、脳梗塞、一過性脳虚血発作）の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>脳血管障害の治療と急性期・回復期・維持期（生活期）のリハビリテーション医療を概説できる。</p> <p>認知症の病因を列挙できる。</p> <p>認知症をきたす主な病態（Alzheimer型認知症、Lewy小体型認知症、血管性認知症）の症候と診断を説明できる。</p> <p>Parkinson病の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>筋萎縮性側索硬化症を概説できる。</p> <p>多系統萎縮症を概説できる。</p> <p>脳炎・髄膜炎、脳症の病因、症候と診断を説明できる。</p> <p>多発性硬化症の病態、症候と診断を説明できる。</p>			

	<p>頭部外傷の分類を説明できる。</p> <p>急性硬膜外・硬膜下血腫及び慢性硬膜下血腫の症候と診断を説明できる。</p> <p>ニューロパチーの病因（栄養障害、中毒、遺伝性）と病態を分類できる。</p> <p>Guillain-Barré症候群の症候、診断を説明できる。</p> <p>Bell麻痺の症候、診断を説明できる。</p> <p>主な神経障害性疼痛（三叉・坐骨神経痛）を概説できる。</p> <p>糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。</p> <p>ビタミン・微量元素の欠乏症と過剰症を概説できる。</p> <p>ポルフィリアを概説できる。</p> <p>重症筋無力症の病態、症候と診断を説明できる。</p> <p>進行性筋ジストロフィーの病因、分類、症候と診断を説明できる。</p> <p>周期性四肢麻痺を概説できる。</p> <p>てんかんの分類、診断と治療を説明できる。</p> <p>頭痛（片頭痛、緊張型頭痛等）の分類、診断と治療を説明できる。</p> <p>水頭症の症候と治療を説明できる。</p> <p>主な脳・脊髄腫瘍の分類と好発部位を説明し、病態を概説できる。</p> <p>脳・脊髄腫瘍、転移性脳腫瘍について概説できる。</p> <p>Sjögren症候群を概説できる。</p> <p>全身性血管炎を分類/列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>Behçet病の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>重金属、青酸、ヒ素、パラコート、自然毒による中毒を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	<p>3分の2以上の出席がない場合は試験【各本試験（前期・後期）、再試験（総合）とも】の受験資格を与えない。</p> <p>代理出席が明らかとなった場合には、代理出席者および依頼者には試験受験を認めない。</p>
評価項目	<p>到達目標の達成度</p> <p>（基本的理解と知識の応用）</p>
評価法	<p>MCQ形式にて試験を行う。</p> <p>本試験における合格基準は60点とする。なお、講義時間中に話していない内容も試験に出す可能性がありますので、関連する項目について十分に自主学習を行うように。</p>
履修上の注意 アドバイス	<p>神経系という共通したシステムに対して、臨床の立場での内科学、外科学など異なったアプローチで理解を進めるため、各回の講義で得られる知識をよく整理して学習する。</p>
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭ほか 南山堂</li> <li>2) 研修医・医学生のための神経内科学 神田隆 中外医学社</li> <li>3) 標準脳神経外科学 第12版 著者：児玉南海雄 医学書院</li> <li>4) グリーンバーグ脳神経外科バンドブック 原著第6版 監訳 黒岩敬彦 金芳堂</li> </ol> <p>【その他、学習に有用な参考書等】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 神経内科ハンドブック鑑別診療と治療 水野美邦 医学書院</li> <li>6) 脳神経外科学 改訂11版 総編集：太田富雄 金芳堂</li> <li>7) 改訂版 脳神経外科学必修講義 著者：松谷雅生 メジカルビュー社</li> <li>8) 講義時にプリントを配布するので、内容を精読すること</li> <li>9) 日本神経学会のガイドライン一覧のURL  <a href="http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html">http://www.neurology-jp.org/guidelinem/index.html</a> </li> </ol>